

ハッピー通信



2025年5月20日発行
25-21号

現場から（最近のニュースから）

自由が幸せですか



質素な生活ぶりから「世界で一番貧しい大統領」とも呼ばれてきた南米ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領が13日に亡くなりました。大統領在任中も公邸ではなく郊外の農場で生活を続け、1国のリーダーとしては異例の質素な生活を貫き、「行きすぎた資本主義」に警鐘を鳴らし続けていました。12年の国連会議での演説は、絵本「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」（汐文社）として刊行されていますが、そのスピーチの内容は多くの人々の心を打ちました。

16年の朝日新聞のインタビューでは「『貧しい人』とは、限りない欲を持ち、いくらあっても満足しない人のことだ。でも私は少しのモノで満足して生きている。質素なだけで、貧しくはない」と語っていました。そのインタビューの中では幸せについても語っていました。

「モノを買うとき、人はカネで買っているように思うだろう。でも違うんだ。そのカネを稼ぐために戦った、人生という時間で買っているんだよ。生きていくには戦かないといけない。でも戦くだけの人生でもいけない。ちゃんと生きることが大切なんだ。たくさん買い物をした引き換えに、人生の残り時間がなくなってしまっては元も子もないだろう。簡素に生きていれば人は自由なんだよ」また、訪日した際には、日本人に働きすぎだと警告していました。

ムヒカ元大統領は、若いころ、非合法政治組織の主要メンバーとなってゲリラ活動に関わり、たびたび逮捕、投獄されています。1972年に4度目に逮捕された際には、収監は13年にも及んだそうです。劣悪な環境の独房で、本を読み漁り、「人間とはいっていいか」「我々は文化や周りの環境からどんな影響を受けるのか」について自問したということです。日本を訪問したときに受けたインタビューで、「いちばん幸せを感じたのは」と問われたムヒカ元大統領の答えが出ていました。長い年月投獄されて、釈放された日が雨だったそうですが、「その雨の中を濡れながら歩いていたとき、雨のしづくが顔を伝わって口を濡らしたとき、本当に幸せだと思った」ということです。(2016年5月10日文藝春秋プラス<日本人への警告、世界一貧しい大統領>)

ほんとうの幸せは、「自由」だと感じるときなのでしょうか。生きるために働いているうちにお金に縛られ、物に縛られてしまっていることがあります。また、人間関係や病気やさまざまなものに縛られて、実際には収監されていないのに、とても孤独で苦しい独房にいるように感じことがあるかもしれません。そこから抜け出して、肩の重荷を下ろしたいと思うでしょう。もし、あなたがそのような苦しい思いを背負っているなら、それは、あなたの環境のせいや、資本主義のせいでもなく、物を求めるあなたの貪欲のせいでもないのです。そうなるしかない、根本的な飢え渴きがあるからです。それは物や人の愛情、自由だと感じる感覚などでは埋めることはできません。いったいなぜそのような飢え渴きがあるのか、また、それはどのように解決できるのか、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれています。隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち碎いて勝利なさいました(ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」